

アチヨ〜

はいしゃさんの

女神さま

毎日が刺激的!



⑥ プロであるなら気づくはず!

文・小原啓子(歯科衛生士, マネジメントマスター)
イラスト・真砂 武

歯科衛生士と歯科助手の業務範囲は、とかく診療室ではもめごとの火種になりやすいようです。SNS(ソーシャル・ネットワーキング・サービス)の歯科衛生士コミュニティでは、いつでも大議論。しかし、これは実に見苦しい。職種が違うのですから、何も争うことはありません。だって、歯科衛生士独自の知識や技術に磨きをかければ、おのずと業務範囲は分離されていくものだからです。

その努力を抜きにして自ら敵対関係を作るのは、歯科医院として得策ではありません。歯科医院の人間関係は、患者さんにダイレクトに伝わります。“そんな歯科医院に患者として行きたいかな〜?”と考えれば、おのずと歯科医院の価値を下げている人が誰だかわかりますよね。新人歯科衛生士は、先輩の歯科助手に歯科医院のすべてを教えてもらって、そのうえで歯科衛生士業務の独自性を高めていけばよいのです。

ところで、私が行うPMTCはほかの歯科衛生士が行うのとチョット違うらしいのです。「小原さんにしてほしい。歯茎に当たる感じが違う」と患者さんに言われます。そうです。患者さんは、チョットの違いをちゃんと感じとります。歯科衛生士のなかでさえベテランと新人(中堅)にそれほどの差があるわけですから、業務範囲について議論をするのは、関心をもつべきところが違ってきます。ちなみに私は、歯科衛生士の方々に「プロ」というなら次の6つができているかと問うています。

- ① 歯科衛生士会に入っていますか……社会的な最新情報を得る手段をもっている
- ② 定期的に専門誌を読んでいますか……知識の充実を図っている
- ③ 1年に2回は、研修会に出ていますか……知識・技術の充実を図っている
- ④ 学校との縁を切っていませんか……人脈作りと愛校精神
- ⑤ 自己投資(給料の5%)をしていますか……プロとして当然の苦痛にならない投資金額
- ⑥ 歯科以外の人も交流していますか……人間性アップ

努力をしている人ほど、謙虚で人間性が豊かです。歯科医院は、チームワーク医療。それぞれの職種を尊重しているからこそ、自分の歯科衛生士としての仕事スムーズに行えるのです。

歯科衛生士の下に歯科助手があるのではなく、それぞれの専門性の基に仕事ながされています。私たちがフラットな組織のなかにいることに早く気づいた人が、誰よりも早く成長できます。忘れてはいけません。私たちは患者さんのために、歯科医療サービスを提供しているのです。

小原啓子(おぼりけいこ)

● 広島歯科衛生士専門学校卒業後、広島口腔保健センター、広島歯科衛生士専門学校教務を経て、現在フリーランス。2004年産能大学(現・産業能率大学)経営情報学部卒業、2006年広島大学大学院社会科学部専攻卒業、マネジメントマスター。DMS Hiroshima代表

『私の仕事は?』

